

祝 辞

北京で開催された冬季オリンピック、ものおじしない日本の若者たちの活躍が目には焼きついています。極限の緊張の中で、自分を信じ、立ち向かう姿は、潔く爽やかであり、二年越しのコロナ禍で、痛んだ国民の心を癒し、今後への勇気までいただいた気がしました。

その後に起きたロシア軍のウクライナ侵攻は、あまりにも対照的で言葉を失いますが、一日も早く平和な世界が戻ることを祈らざるを得ません。

さて、卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

皆さんの高校生活も、我慢することが多く、さぞかし大変であったことと思います。そのような中、コロナに負けるなど宣言し、知恵を絞り、できうる限りのチャレンジを続け、みんなで今日の日を迎えられたことに、心底エールを送りたい気持ちです。

同時に、このような非常時の中、皆さんを励まし、温かく見守り、指導してこられた、志津校長先生はじめ、諸先生方のご努力に、深く敬意を表し感謝の気持ちをお伝え申し上げます。

また、惜しみなく愛情を注ぎ、見守ってこられたご両親・ご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。かつて経験したことのない、新型コロナウイルス感染症に対する警戒に終始した日々でありました。毎日の生活には心配の種が尽きなかったかと思います。

私も本日の卒業証書授与式に参列できるものかと、心配しておりましたが、オミクロン株も峠を越したようで、皆様と共にこの感動を味わえますことをありがたく、感謝申し上げます次第でございます。

さて、卒業生の皆さん、大勢の友人たちと共に青春を謳歌し、学業にクラブ活動に、また、生徒会活動に打ち込んでこられた三年間は、いかなるものでありましたでしょうか。皆さんの頑張りに、心から共感し、皆さんの船出にひと言、励ましの言葉を添えたいと思います。

『繋がる』とか『絆』という言葉があります。偶然、美須々に学び、旅立つ私たちは、同窓生であり、同じ釜の飯を食った者同志、何かしらの絆で結ばれているというお話をします。

私は、観光業に身を置きホテル経営をしています。ホテルが一番大切に思うことは、「おもてなし」もそうですが、「安全と安心」が基本です。お客様が無事に着いて、無事にお帰り頂く。その意味では、施設や設備の維持管理に力を注ぎます。

やれ水が出ない。トイレが詰まった。暖房が効かない。などのトラブルが時にホテルを襲います。

そんな時頼りになるのが設備屋さんです。もう三十年近く面倒を見てもらっている会社があります。親子二人の設備会社です。殆どのトラブルは、お客様が滞在する夕方から次の朝までに発生するため、大企業のように休みが多く、夕方以降連絡がつかないところでは困るのです。その彼は二四時間、私からの電話に対応してくれます。ホテルの配管やバルブの位置など知り尽くしている彼は、正に当ホテルの主治医のようで、遠くにいても電話で的確な指示をしてくれます。

私と彼との信頼関係は…、というと「美須々卒業」という「繋がり」からです。親戚でも友人でもありませんでしたが、今はそれ以上です。

考えてみると、自分の加入している生命保険や、商工会議所、市役所、防火管理協会、ロータリークラブなどのお付き合いも、美須々が多いこと、多いこと。同窓会長だからではなく、そんなお付き合いを大切にしていたら同窓会長になってしまいました。

美須々の同窓生たちは、ある種の「絆」で結ばれています。何となく緩やかな連帯で結ばれ、支え合って生きているように思います。

先輩…、後輩…、と呼び合うと気持ちが良いものです。

今後、私たちはコロナを経験して『新しい生活様式』が求められていきます。これからの働き方や考え方は、新世代の皆さんが創り

上げていくことになります。

親もとを離れる皆さんが多いと思いますが、+進学しても就職しても、周りを見渡せば、どこかに「美須々」がいます。無理にとは申しませんが、頼りにし、頼りにされ、貴方らしく人生を歩んでください。

結びとなりますが、卒業生の皆さんの今後の健康とご活躍を祈り、同窓会を代表しての祝辞とさせていただきます。

令和四年 三月 四日

長野県松本美須々ヶ丘高等学校

同窓会長 小林磨史